Reitaku Overseas Development Association
RODA ニューズレター
一般財団法人 麗澤海外開発協会　会報

平成26年
（2014年）
7月1日
第18号
第12巻第1号
年2回発行

主な記事

巻　頭　会長メッセージ
報　告　留学生を招聘／ラオス・スタディツアー
　　平成25年度事業報告
その他　会費・寄付金・竹原基金等の報告

発行所：一般財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065　千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165　FAX.04-7173-8953
http://www.reitaku.or.jp
発行人・木下廣太郎／編集人・横山守男

「心の通い合う国際協力」をめざして

一般財団法人 麗澤海外開発協会
会長　廣池 幹堂

今日、開発途上国の中には著しい経済発展を遂げつつある国が存在する一方、経済・教育・社会環境等において依然として厳しい状況に置かれている国々が存在します。

麗澤海外開発協会（ＲＯＤＡ）は、「開発途上国において文化・経済の発展に協力するため、国際協力活動を通じて、世界の平和、人類の安心と幸福の増進に寄与すること」を目的に、昭和46年（1971）に外務省所管の財団法人として設立されました。以来40年以上にわたり、微力ながらも開発途上国における人材育成や技術支援・教育支援に取り組み、平成25年４月には新たに内閣府より「一般財団法人」として認可されました。今日までご支援を賜りました多くの皆様と、海外での活動にご尽力いただいている皆様に、あらためて深く感謝申し上げます。

現在は、主にタイ北部の少数民族の子供たちへの教育支援、ラオスとカンボジアにおける学校建設等への支援、ネパールにおける医療支援、海外での自然災害に対する緊急支援等を行っています。

また、アジアの子供たちのための奨学金制度「竹原基金」も設置しております。これは、当協会の副会長でラオス出身の竹原茂・麗澤大学名誉教授の名を冠したものです。この基金を生かして、貧困等の理由で学校へ通えない、アジアの多くの子供たちへの教育支援を進め、本年４月からは留学生の招聘事業も開始いたしました。現在、この事業により、ラオス国立大学からの留学生ウドムスック・スリントーンさんが、麗澤大学の別科日本語研修課程で明るく元気に学んでいます。

さらに、ボランティアの一環として、タイ、ラオス等におけるスタディツアーも実施しています。このツアーには学生・生徒・青年たちが参加し、訪問国の人たちとの交流や現地での生活体験を通して国際協力への理解を深めています。

このように、ささやかではありますが、「世界の平和、人類の安心と幸福の増進」に寄与するため、これまでの経験と実績を踏まえて若い世代の育成にも貢献し、「心の通い合う国際協力」をいっそう推進していきたいと念願しております。今後とも、当協会の諸事業に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ラオス国立大学から留学生を招聘

麗澤大学で学ぶ ウドムスック・スリントーンさん

留学生のスリントーンさん

竹原茂副会長の名を冠した「竹原基金」により、本年4月から1年間の予定でラオス国立大学から麗澤大学別科日本語研修課程に留学生1名を招聘しました。

ラオス国立大学は、日本政府の援助で文学部に日本語学科が設置され、現在、80名の学生が学んでいて、その中から優秀な学生であるウドムスック・スリントーンさんが選ばれました。この招聘により、日本とラオスの交流がいっそう深まり、両国の懸け橋となる人材になることが期待されます。

スリントーンさんは、首都のビエンチャン近郊の町で生まれ、通っていた小学校は日本からの援助を受けていて、小さいころから日本には親近感と憧れをいだいていました。そのことから、日本語を学びたいという強い意志もあり、大学への進学も日本語学科を選んだということです。現在20歳で、ラオス国立大学の3年生です。ご両親ともに教育者で、お姉さんも教師をしておられます。

ラオス国立大学は広大な敷地を有する総合大学で、2万5千名の学生が学んでいます。日本語学科と経済学部の校舎は日本の援助で建設され、現在も日本から数名の教員が派遣されています。また、キャンパスの中にはJICA（国際協力機構）が運営する社会人を対象にした語学学校が設置され、同校にも日本から教員が派遣されています。

スリントーンさんは、今年3月末に来日し、他の留学生とともに、麗澤大学に新設された校舎と学生寮での学生生活を満喫し、明るく元気に勉学に励んでいます。4月末に開催された麗澤大学留学生歓迎懇親会では、留学生を代表して次のようにスピーチしました。

「私は、これから麗澤大学の別科で一年間、日本語を勉強いたします。私の国ラオスの正式名称は『ラオス人民民主共和国』です。公用語はラオス語です。首都はビエンチャンです。ラオスはベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国に国境を接しています。ラオスには、豊かな天然資源があり、仏教を信仰する人が多く、昔から残っている建物や伝統的なお寺などもたくさんあります。赤道に近いので、とても暑い国です。季節は二つあります。雨季と乾季です。ラオス人は、いつも笑顔で親切な人々が多いと思います。そして、自分の文化や習慣などを今でも守り続けています。

日本はラオスに多くの支援をしている国の一つです。例えば、私が勉強していた小学校も日本から援助を受けています。その影響もあって、私は日本に興味があって、日本語を勉強することを決めました。日本語を勉強できて、とてもうれしいです。麗澤大学で留学生として日本語を勉強できるのは、私にとって大きなチャンスです。だから、この場を借りて、私に奨学金を出して頂いた麗澤海外開発協会と、お世話になる麗澤大学の関係者の皆さんにお礼を申し上げます。

ラオス国立大学日本語学科生との交流

私の目標は、自分の日本語の能力を向上させることです。この一年間、その目標達成のために、一生懸命日本語を勉強することと日本の文化や生活への理解を深めます。そして、いろいろな国の友達とお互いに文化や考え方などを理解して交流し、ラオスへ帰ったら日本での経験を役立てたいと思います」

ネパール 医療支援

「ビルガンジー・ヘルスキャンプ」を実施

ティテパティよもぎの会　会長　畑　美奈榮

ネパール南部にあるインド国境の町ビルガンジーでのヘルスキャンプ（無料巡回治療）は、一昨年に続いて2度目となり、今回は前回を上回る19名の日本人鍼灸師・鍼灸学校の学生が参加しました。国内線の飛行機の定員は18名のため、往復とも私ともう一人の先生は別便で移動することになりました。

ヘルスキャンプの会場は前回同様「ラニサティマンディール」でした。この会場は大きなお祭りのときは、近隣のネパール人のみならず、国境を越えてインドからも多くの人々が訪れ、広い会場は宿泊所として100人以上の人が寝泊まりできる会場です。そのためトイレや水道も完備され、申し分ない好条件の会場でした。ボランティアも前回同様、看護学校の3年生が毎朝6時半にバスで到着。すぐさまベッドサイドを整え、列をなして待機している患者さんを誘導してくれました。

合計患者数は4,600人強でしたが、4日目と5日目の受診者がそれぞれ1,000人を超え、当日のうちに終わるのかと心配になり、何度も行列の最後尾へ確認に行き「あと300人ほどです。がんばってくださ～い」などと繰り返したほどでした。

今回も経験者の石島裕太先生が団長として、種ヶ島永子先生、中川和彦先生にグループリーダーとして大変ご活躍いただきました。モラロジー専攻塾生の奥村祐司君にはアシスタントとして、先生方とネパール人スタッフ、そして患者さんの間をうまくコントロールしていただき、大変スムーズに事が運びました。

初めて海外での治療を経験される先生や、看護師としてフィリピンでの活動経験のある先生、今年3月まで教員として鍼灸学校で教鞭をとり、実技を教えておられたベテランの先生の参加もあり、たいへん心強い7日間でした。

一人の落伍者も病気や事故もなく無事に終了できたのは、参加者の皆さんの情熱と、快く送り出していただいた職場の皆さん、留守家族の皆さんの応援のおかげと感謝しています。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

●期間：2013年8月24日～30日　●治療患者総数：4,620名（延べ人数）

ビルガンジー・ヘルスキャンプに参加して

ヘルスキャンプでの筆者

「目の前のことに全力で」

モラロジー専攻塾　第22期生　奥村　祐司

始めに、畑美奈榮先生をはじめドクターの皆様、ネパール人スタッフの皆様、本当にありがとうございました。私は今回、アシスタントとしてこのヘルスキャンプに参加しました。医学的な知識には乏しく、自分自身が鍼灸治療を受けたこともありませんでした。そんな中でヘルスキャンプが始まりました。初めて触れる「もぐさ」、思った以上に細い鍼（はり）、見るものすべてが新鮮に感じました。しかし、同時に「本当にこんな細い鍼で治療ができるのだろうか、症状は良くなるのだろうか」ということを感じていました。

日増しに患者数は増え、一週間を通して4,620名の患者がヘルスキャンプ会場に治療に訪れました。まるで野戦病院のようにベッドが並べられ、次から次へと患者がやってきます。そんな中の私の仕事は、空いているベッドに患者を誘導したり、使用済みの鍼やゴミの回収、消毒液の補充、治療風景の写真撮影でした。ドクターに「Yuji！」と呼ばれ、走り回っていたことを覚えています。

患者の多くは、関節の痛みや腰痛で治療を受けていました。ネパール人も僕らと同じ気持ちだったのでしょう。鍼は痛いイメージがあります。それにドクターは、痛いからといって、いつも痛いところに鍼を打つわけではありません。舌や脈など様々な部分を診て、患者の体の様子を読み取ってから治療を始めます。治療を始める前の患者の顔は不安そうでしたが、治療を終えると笑顔になり、アシスタントの僕にさえ笑顔で「ダンニャバード（ありがとう）」と手を合わせて帰っていく姿を見て、東洋医学のすばらしさを感じました。

私は、期間中に畑先生やドクターとお話しする機会が多くあり、その際、感じたことは、各々が目的意識を持ち、目の前のことに対して全力で取り組んでいるということでした。その姿は輝いて見え、話をしていても治療をしていても力強さを感じ、説得力がありました。その中でも最も輝いて見えたのは、やはり畑先生でした。先生のお話の中で、ネパールに雇用を生み出し、後継者となる鍼灸師の育成までの苦労を知り、このような苦労こそが甲斐のある苦労であると感じ、同じ日本人として異国の地で尽力しておられる姿に大変感銘を受けました。私も、一人の日本人として何ができるのかを考えたいと思います。たいへん貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

ラオス・スタディ

ラオス国立大学日本語学科
ミーサイ学科長（左）と竹原副会長

平成26年２月18日から24日にかけてラオス・スタディツアーを実施し、麗澤大学の学生を含む６名が参加しました。ラオス出身の竹原茂・当協会副会長（麗澤大学名誉教授）の引率のもと、首都ビエンチャンの在ラオス日本大使館を訪問し、ラオスの現状や文化・歴史・経済についての研修を行いました。併せて、ビエンチャンにあるラオス国立大学を訪問して日本語学科の学生と交流し、同学科に『伝記　廣池千九郎』『親子で学ぶ偉人物語』（共にモ

ラオス国立大学日本語学科生
との交流会

参加者の声

ラオスの魅力に引き込まれた 2回目のスタディツアー

麗澤大学　外国語学部外国語学科
国際交流・国際協力専攻2年　平賀　絢子

今回のツアーは、私にとっては２回目のラオスへのツアーとなりました。今回は、私が所属している麗澤大学の学生ボランティア団体RISOVPでの活動のための情報収集として、このスタディツアーに参加させていただきました。正直、１回目のときは最終日に体調を崩したこともあって“もう２度とラオスに来ることはないだろう”と思っていました。しかし、団体の都合で行くことになり、出発日まではあまり乗り気ではありませんでした。

今回のツアー１日目も、団体の活動のため、さまざまなことを聞かなくてはいけないというプレッシャーからか、すぐにでも日本に帰りたい気持ちでいっぱいでした。しかし、それは１日目が終わったときに吹っ飛んでしまいました。竹原教授や他の参加者、スタッフの方が私たちの団体の活動のことを知っていてくださったおかげで、どの訪問場所へ行っても、十分な情報を得ることができました。

その他にも、大使館ではラオスについてより詳しく知ることができ、日本語センターでは、日本に留学経験のあるラオス人の方々にお話を聞くことができ、日本とラオスを比較した情報を得ることができました。ラオス国立大学での日本語学科生との交流では、ラオス人の友達をたくさんつくることができました。前回のツアーで訪れたAAR Japan（難民を助ける会）、IV-Japanでも新たなラオスの情報を得ることができ、学びの面で非常に収穫の多いツアーだったと感じております。

ツアーを開催

世界遺産ルアンパバーンの托鉢風景

ラロジー研究所刊）等の書籍を贈呈しました。

また、同大学内にあるラオス日本センターを訪問して日本語教育の現状を学び、ラオスで活動するＮＰＯ団体を訪問して協力活動の実態を学び、あらためて国際協力の重要性を感じました。その他、世界遺産の古都ルアンパバーンを訪問してラオスの仏教や伝統文化を学ぶなど、文化体験や交流を通してラオスへの理解がいっそう深まったツアーとなりました。

ラオス日本センター訪問

在ラオス日本大使館訪問

そして更に、今回のツアーでは“ラオス人”にすごく触れることのできた旅だったように思います。それが私の中では一番印象に残っています。例えば、ラオス人は基本的に綺麗好きで、すぐ疲れてしまう、家族との時間を大切にしている、というようなことです。特に、すぐ疲れてしまうと聞いたき“だから、自転車よりもバイクや車を運転している人が多いのだよ”と教えてくれました。ずっと不思議に思っていた“自転車よりもバイクが多い”という謎がこれで解明されました。そして何よりも、ラオス人はのんびりしていて、温かいのです。５日間ほどの滞在でしたが、どんどんラオスの魅力に引き込まれていって、最終日には“海外で住むならラオスが良い！”と本当に思いました。時間の流れがとてもゆっくり感じて、日本はなんて窮屈なのだろうとしみじみ感じました。日本は、人が忙(せわ)しなく往来し、誰もが時間に追われ、職に追われ、朝早くいそいそと出勤して、夜遅くにへとへとになって帰ってくる。そしてまた朝早く出かける。日本人は真面目で努力家の方が多いと思うし、そこが日本の良いところだとも思うけれど、息抜きもしないと、いつか崩れてしまう。そういう面では、ラオス人のやり方や考え方をお手本にしたほうがいいのではないかな、と思いました。

日本は先進国で、ラオスは最近まで最貧国と呼ばれていた国ですが、現在はラオスに日本の企業が多く入ってきていると聞きました。ラオスにはまだ伝えなくてはいけないことがたくさんあると思います。しかし同時に、日本もラオスから学べることはいくつもあると私は思います。

私は、あのラオスの、ゆっくりと時間が流れている、のんびりとした空気が好きです。温かくて、よく笑うラオス人の人柄が好きです。今回の旅でラオスがとても好きになりました。空気感や人柄だけはそのままのラオスでいてほしいと思います。また機会をつくってラオスに行きたいです。１回では良さがわからない国だと思うので、他の人にも最低２回はラオスに行ってほしいと思っています。

平成25年度　事業報告

1．支援事業への助成について

（1）ネパールにおいて東洋療法（鍼灸・指圧）により住民の健康回復に寄与するため、ネパール赤十字が「よもぎの会」の技術支援を受けて実施した無料巡回治療（ヘルスキャンプ）に支援と助成を行った。

（2）タイ北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の児童に対して生活・教育支援施設の運営事業を実施している、メーコック財団に対して支援と助成を行った。

（3）東南アジアからの留学生への教育支援を行った。

① 麗澤大学で受け入れているブータンからの留学生に対し、麗澤大学国際交流センターと連携をとりながら支援を行った。

② ラオス国立大学から麗澤大学へ受け入れる留学生に関して、具体的内容について打合せを行った。

2．緊急支援活動について

（1）フィリピン台風被害に対して、国連ＵＮＨＣＲ協会を通じて緊急支援を行った。

3．スタディツアーの実施について

（1）東南アジア諸国で活動する支援団体等の現状を視察し、ボランティア研修を通じて海外ＮＧＯ活動に対する理解を深めるためにスタディツアーを実施した。

① ラオス・スタディツアー

- 訪問先　ラオス（ビエンチャン、ルアンパバーン）
- 日　程　平成26年2月18日～2月24日（7日間）
- 参加者　6名（引率　竹原副会長、青木事務局員）

（2）麗澤各校が主催するスタディツアーへの支援と協力を行った。

① 麗澤大学タイ・スタディツアー

- 訪問先　タイ（チェンマイ、チェンライ）
- 日　程　平成25年8月21日～8月30日（10日間）
- 参加者　8名（引率　成瀬教授、小林事務局員）

② 麗澤高等学校タイ・スタディツアー

- 訪問先　タイ（バンコク、チェンライ）
- 日　程　平成25年12月20日～12月27日（8日間）
- 参加者　17名（引率　桑島事務局員、菅野職員）

4．広報活動について

（1）ニューズレター第17号（2013年6月）を発行した。

（2）ホームページを全面的に改定した。

（3）活動紹介ＤＶＤとリーフレットを制作した。

5．出展活動について

当協会の活動に理解や支援者を募るため、会員の募集や写真展示等を行った。

（1）「伝統の日・感謝の集い」

（2）「モラロジー生涯学習フェスタ2013」

6．賛助会員等の募集状況について

（1）賛助会員、寄付金、竹原基金の募集を行った。

① 賛助会員　121件（個人113件、団体8件）

② 準 会 員　85件

③ 寄 付 金　127件

④ 竹原基金　78件

平成25年度　正味財産増減計算書

（単位 円）

経常収益の部		経常費用の部	
① 基本財産運用益	111,560	Ⅰ 事業費	
② 賛助会員受取会費	1,790,000	① 海外旅費	1,457,384
③ 準会員受取会費	184,000	② 広報活動費	1,641,675
④ 受取寄付金	1,737,218	③ 図書資料費	31,730
⑤ 受取竹原基金寄付金	914,280	④ 雑費	142,206
⑥ 受取利息	1,321,177	⑤ 緊急援助費	300,000
⑦ 雑収益	0	⑥ 支払助成金	2,131,432
経常収益合計	6,058,235	事業費合計	5,704,427
		Ⅱ 管理費	2,877,414
		経常費用合計	8,581,841
		当期正味財産増減額	△ 2,523,606

フィリピン台風被害への緊急支援

ご協力ありがとうございました！

麗澤海外開発協会では、2013年11月8日早朝にフィリピン中部に上陸した台風の被害に対して、国連UNHCR協会（国連難民高等弁務官事務所）を通じて30万円を支援しました。

当時、猛烈な台風30号により甚大な被害を受けたフィリピンでは、約1,400万人が被災しました。壊滅的な被害を受けたレイテ島の都市タクロバンおよび周辺地域では、寸断された道路のがれき撤去作業が進むとともに港湾業務を再開し、国連ＷＦＰの食糧支援活動も拡大しましたが、不幸にも家を失った約350万人の被災者が不自由な避難生活を余儀なくされています。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

田島 政芳 氏（千葉県柏市）
麗澤海外開発協会 元顧問・理事・監事・評議員。
４月６日逝去、92歳。

望月 雄二 氏（神奈川県鎌倉市）
麗澤海外開発協会理事、元評議員。４月12日逝去、62歳。

たくさんのご支援、ありがとうございます

（平成25年4月1日～平成26年3月31日／掲載に同意された方を紹介します）

■会　費

長谷篤治、長谷真千子、桑島義智、桑島朋子、土谷和光、永冶達彦、松本彰夫、前田晃伸、須見好和、山本祥子、梅村元成、平野隆夫、熊木亜夫、㈱スーパーバリュー九州本部、小松務、㈱小松製菓、藤村薫、福井博康、石渡英雄、小山松男、高松宇佐雄、大村金三、野田好秋、荻野益男、太田徳昭、長谷和治、山本栄道、小嶋義佑、岩田英志、森定昌代、白木貞一郎、東海林新彦、井川好長、望月一雄、木津孝道、横山守男、松本哲洋、上田通泰、上田敏子、望月雄二、望月靖子、望月淑子、望月敏雄、島田京子、大内栄三、俣野幸昭、星野修一、横山明弘、山口秀正、佐藤薬品工業㈱、前田三作、山本浩、山崎純雄、菅澤運一、有限会社弘明堂、水田恵一郎、菅間正則、田中一宏、大井武、宮脇常夫、板垣廣光、杉山直、堀口栄一郎、三木実、舘林正孝、大谷誠之、甲良昭彦、沼野文子、今井收、廣池幹堂、堀勝三郎、荒木郁雄、風澤俊夫、丸山駿一、廣池英行、平塚靖永、小西直之、山口明、堀内一史、新井秀啓、新井日出子、山田雅雄、井上源一、郡山モラロジー事務所、柏谷康博、横山印刷㈱、関哲夫、木下廣太郎、竹原茂、所一彌、小林雅純、黒臼常光、北川治男、鈴木貞夫、黒川洋、内田誠一郎、小金井暁子、柴田英輔、井上和行、今木康之、小西正純、㈱クドー、山口広明、上田豊、山口マーク、橋本半兵衛

■準会費

長谷英治、長谷遵、神野幸夫、佐藤惇、木﨑重安、大山圭子、望月賢一、西川陽一、俣野喜代美、大嶋久幸、林正勝、小竹充、小林霞、中村靖夫、井出一男、舘林正孝、八木秀時、橋本賢三、林善介、田中聖則、都竹高一、乙部完司、杉山雄彦、浦田あやか、岡田宙子、橋本光世、滝田和江、松岡平記、三浦順治、高野橋孝治、北岡希久朗、井上照悟、唐澤創自、松岡亜矢子、松浦貞雄、村田浩康、杉生ウタヱ、杉生協士、山田武司、長谷川和子、望月昭一、麻場賢一、望月久司、石井恵美子、山田英夫、堀敬明、諸星広明、村上千秋、飯田隆康、望月秀一、山川香、望月省二、安田誠一、野川裕史、尾崎哲子、小西幹夫、江袋奈々、稲垣敏則、和田久定利

■寄付金

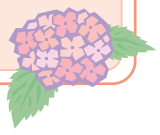
長谷篤治、 三上ハツミ、 桑島義智、 濱井利一、 松元郷子、 岩坂憲道、 中日本生涯学習ｾﾝﾀｰ、 井上照悟、 渡辺康博、 大山圭子、 伊東俊太郎、 福井博康、 増田一江、 野田好秋、 荻野益男、 長谷和治、 ㈱ダイキョープラザ、 飯島孝之、 横山守男、 堀部房男、 上田通泰、 俣野幸昭、 前田三作、 柿本勇人、 俣野貴昭、 俣野智美、 澤田修一郎、 鈴木靖久、 宮脇常夫、 MGC関東大会、 杉山直、 松岡平記、 油谷恒雄、 甲良昭彦、 松岡孝柊、 上萩洋三、 廣池幹堂、 早乙女静子、 北敬子、 ㈱ダスキン東横、 大河原良雄、 山本祥子、 大住敬一、 丸山駿一、 京都東山区モラロジー事務所、 佐久間三郎、 石原順男、 土谷和光、 関俊章、 森与喜男、 小林安子、 御代川克之、 小西直之、 堀勝三郎、 三笠忠克、 山口明、 堀内一史、 橋本賢三、 山田雅雄、 井上源一、 波部忠司、 西尾さゆり、 小野義仁、 関哲夫、 木下廣太郎、 所一彌、 増田顕次郎、ファッションハウスたかさご、諫山寿徳、内藤元彦、神田出、橘高重久、佐藤孝子、笠田環嗣、 鋤柄誠治、 篠原正隆、 大阪和泉モラロジー事務所、 光安輝雄、 静岡県モラロジー協議会女性クラブ、 世田谷北沢モラロジー事務所、 伊達モラロジー事務所、 太田慎一、 池田智栄子、 廣池学園まんりょう会、 神戸丹有モラロジー事務所

■竹原基金

長谷篤治、 桑島義智、 桑島朋子、 桑島祥子、 土谷和光、 田中駿平、 ウィクラマラタナ文子、 大山圭子、 福井博康、 高松宇佐雄、 野田好秋、 荻野益男、 長谷和治、 山本栄道、 小嶋義佑、 木津孝道、 横山守男、 松本哲洋、 上田通泰、 前田三作、 ㈱ピアかざりや、 新井秀啓、 山本浩、 宮脇常夫、 飯島孝夫、 麗澤大学プアンサークル、 松岡平記、 甲良昭彦、 ＭＧＣ爽やかゴルフサークル、 片山道則、 松岡孝柊、 廣池幹堂、 北岡希久朗、 鋤柄勘治、 山本祥子、 廣池英行、 加藤栄一郎、 加藤治彦・翠、 御代川克之、 小西直之、 長谷川和子、 小林一正、 板橋芳夫、 山口明、 堀内一史、 三保博子、 新潟モラロジー事務所、 長尾祐子、 山田雅雄、 井上源一、 加藤信次、 柏谷康博、 関哲夫、 木下廣太郎、 竹原茂、 所一彌、 支援キルトの会ふーぷ、 山川香、 鋤柄誠治、 篠原正隆

《会員・準会員募集中》

麗澤海外開発協会は、皆様からお寄せいただいた会費や寄付金によって活動しています。会員および準会員を募集していますので、是非ご入会くださいますようご案内いたします。



種　類	年　額
会　費	１口１万円（１口以上）
法人会員	１口１万円（１口以上）
準会員	１口２千円（１口以上）
寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164
名義／一般財団法人 麗澤海外開発協会
※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567
名義／一般財団法人 麗澤海外開発協会

一般財団法人
麗澤海外開発協会 事務局
〒277-0065
千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL：04-7173-3165
FAX：04-7173-8953
E-Mail:kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp
HP:http://www.reitaku.or.jp/

会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載に同意いただいたものといたしますので、ご了承ください。